

目指す学校像	自ら考え進んで行動する「強い子」の育成 凡事徹底、一步前進、チーム田島小学校！
--------	---

重点目標	1 子どもを主語にした教育活動の推進 2 子どもが安心・安全に過ごせる学校運営の推進と学校風土の醸成 3 教育活動の積極的な広報とコミュニティ・スクールの推進 4 ICTの有効活用と子どもの学びの向上を実現する校内研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
年 度 目 標		年 度 評 価			年 度 評 価		実施日令和5年2月10日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<現状> ○日常的に1人1台の情報端末を活用した学習が行われ、基本的なスキルを身に付けている。 ○基礎学力の定着を目指し、「学年×10分」の家庭学習を推奨している。 ○高学年を中心に学年内教員での交換授業を実施し、学習活動の充実を図っている。 <課題> ○学習に対して、受け身的な姿勢が見受けられ、自ら課題を見つける力、道筋を考えて学習する力を身に付けることが課題となっている。 ○学習アプリ「スタディ・サブリ」の導入や友好的な活用方法について、確認を行うとともに、教員の研修が必要である。	・子どもの学びの自律化に向けたタブレット端末の活用と授業改善 ・子どもが学ぶ楽しさを実感できる授業スタイルの確立	①タブレットの学習アプリ「スタディ・サブリ」や「ドリルパーク」を活用し、子どもが自分のペースで学習に取り組めるようにする。 ②「学年×10分」の家庭学習を推進するため、学校と家庭との連携強化を図る。 ③全学年において一部教科担任制を導入し、学びの質の向上を実現する。 ④「STEAMS TIME」「SDGs教育」「金融経済教育」等を核とした学びの探究化を実現する。 ⑤インプット・アウトプットのバランスの取れた授業を実施する。	①1学期中の授業で「スタディ・サブリ」に取り組み、夏季休暇以降には学校や自宅で取り組むことができる状態にできたか。 ②「学年×10分」の家庭学習の実現に向けた課題提供ができたか。また、児童の8割が実施することができたか。 ③全学年において、一部教科担任制による授業を実施することができたか。 ④学校評価の教員対象にしたアンケートにおいて、「子どもが探究的な学びを実践することができた」と回答する教員の割合が80%以上となったか。 ⑤同上のアンケートにおいて、「子どもが自分で考え、表現する活動が実現できた」と回答する教員の割合が80%以上となっているか。	①今年度導入した学習アプリ「スタディ・サブリ」を、学校や自宅で取り組めるように整備することができた。長期休業中には、自由課題として取り組むことができた。 ②家庭学習の習慣化にむけ、宿題や自主学習の課題提供を行った。習い事があり、自宅学習の時間確保が難しいとの声があった。 ③高学年は、教科担任制を導入し、効果を上げることができた。また全クラスにおいて、複数の教員による指導を実施した。 ④教職員のアンケート結果は55%となり、目標を達成することができなかった。教科や単元等によって実践が難しかったようである。 ⑤アンケート結果は%80となり、目標を達成することができた。様々な指導場面での声かけにも変化が見られるようになった。	B	①今年度の実施状況から、「ドリルパーク」や「スタディ・サブリ」等の有効活用について情報共有を行い、さらなる改善に向けて検討を行う。 ②教科担任制導入の影響を含め、宿題・家庭学習の在り方について、検討を進める。 ③令和4年度の実績をもとに、田島小の実態に合わせた教科担任制を導入していく。 ④「STEAMS TIME」をはじめ、各教科で探求型の学習スタイルを研究し、実践していく。 ⑤子どもが考える機会を多く持てるような教育活動の在り方、指導の在り方を研究し、実践していく。	○1人1台のタブレットを活用した学習が積極的に進められている。 ○タブレットを活用しての学習も大切であるが、「人と人の関わり」も重要である。子ども同士の意見交換など、コミュニケーションのツールとして、タブレットを有効活用してもらいたい。 ○社会に出ると、コミュニケーションが必要となる。PCの基礎的なスキルとコミュニケーションの両方の力が求められる。対話的な学習も大切にしてもらいたい。
2	<現状> ○昨年度の学校評価アンケート「仲良く生活している」という項目の児童の肯定的な回答の割合は9割となっている。 ○創立48年目となり、校舎・施設等に老朽化が見られるが、定期点検と必要な修繕を実施し、大きな事故等は発生していない。 <課題> ○アンケート結果等によると、自己肯定感の低い児童が多く、個別の課題を抱える児童を把握し、相談・支援を行っている。 ○施設の定期点検だけでなく、日々の点検、使用前の点検等を行っているが、即時修繕が難しい場合もある。	・児童理解を基盤とした組織的な支援体制の充実 ・子どもの思いやりの心情を育む教育活動の充実	①児童向けアンケートを実施し、児童の心の状態を把握する。必要に応じて家庭や専門機関と連携を図り、児童の支援にあたる。 ②生徒指導・教育相談・特別支援教育に係る学校委員会を開催し、情報共有を行い、組織的な対応を行う。	①アンケート結果に応じた迅速・適切な対応ができたか。また、必要に応じて専門機関等と連携して支援を行うことができたか。 ②毎月学校委員会を開催し、効果的な支援が実施できたか。また、必要に応じてケース会議を開催し、支援方針を協議することができたか。	①児童のアンケート結果を担任が確認し、緊急な対応が必要な事案については、速やかに管理職に報告し、保護者や関係機関と連携を行い、適切に対応することができた。 ②毎月学校委員会を開催し、学校生活の様子、児童の個別事案、学校のルール等について情報共有を行い、対応することができた。 ③アンケートの結果は90%となり、目標を達成することができた。	A	①現在、学校と家庭、関係機関の連携が図れている。特に、保護者と連携した支援は効果が高いため、今後も積極的に連携を行う。 ②With コロナ、After コロナの中での学校生活となるため、現状を把握し、常に改善を心掛けていく。 ③多くの児童が笑顔で登校し、学校生活を楽しんでいる様子が見える。今後は、さらに一人ひとりに目を向けられるような方策が必要である。 ④引き続き、道徳教育を中心に学校教育目標である「思いやりのある子」の育成を目指していく。	○トイレが改修され、明るく行きやすくなるなど、環境が整備されている。 ○仲良く生活している児童が9割を超えており、安心した。一方で1割の児童に対しては、個別に対応が必要だと思う。 ○「思いやりのある子」の育成を進めるためにも、道徳教育を推進してもらいたい。
3	<現状> ○今年度より設置された学校運営協議会において本校の目指す「強い子」の育成に向け、学校・家庭・地域で連携を強化することを共有した。 ○学校ホームページや SNS を活用し、教育活動の様子や学校からのお知らせ等による情報発信が積極的に実施できるようになってきた。 <課題> ○学校運営協議会の会議内容の充実とコミュニティ・スクールの周知が課題となっている。 ○教育活動の積極的な広報を実現するために、ICT機器の有効活用の研究と発信準備に係る人員・時間の確保が課題である。	・田島小学校学校教育方針の決定 ・学校ホームページや SNS を活用し、教育活動を積極的に広報実施	①学校運営協議会において、本校の課題や今後子どもたちに求められる資質能力等をもとに、様々な立場から熟議を行う。 ②学校運営協議会を核とし、地域や関係機関等との連携強化を図る。	①学校運営協議会の熟議を経て、次年度の田島小学校学校教育方針を決定することができたか。 ②地域や関係機関との連携した活動を実施することができたか。	①第3回運営協議会において、令和5年度の教育方針を提案し、決定する予定である。 ②「畑の先生」や「お花の先生」に協力をいただき、多くの植物や野菜を栽培するなど、豊かな経験をすることができた。	B	①学校運営協議会での熟議事項を精選し、学校教育の充実を図っていく。 ②今年度活動を再開した図書ボランティアを含め、連携を密にし、豊かな教育活動を推進していく。	○SNSの発達、リモートによるコミュニケーションが定着し、さらにマスクの着用により表情もわからない時代だからこそ、対面で話すことが重要だと思う。 ○畑の先生などのボランティアさんには、子どもたちのためにお力をいただいでいて、大変ありがたい。 ○ホームページでの紹介や SNS の活用もとてもよかった。音楽会の動画なども楽しく視聴でき、学校や子どもの様子がわかってよかった。
4	<現状> ○全学級において1人1台のタブレット端末を積極的に活用した授業が実施できるようになってきた。 ○昨年度から、ICTを有効に活用した児童の読解力向上を目指した校内研究を実施している。 <課題> ○教員が子どもの学びの向上を実現するための授業研究をする機会・時間の確保が大きな課題となっている。 ○学校全体として、学びの基礎となる読解力に課題がある。	・タブレット端末の効果的な活用と子どもの読解力向上を実現する校内研究の実施	①GIGAタイムを実施し、子どもの情報リテラシー教育を行う。 ②エバンジェリストを中心に、有効的なICT機器の活用方法を研究し、授業等で活用していく。 ③教育委員会指導訪問において、読解力向上に向けた指導の工夫と改善について実践授業を行い、指導助言をいただく。 ④校内研修において、年間を通して読解力向上に向けた研究を行い、年間3回の研究授業を行い、教員の指導力を向上させる。	①GIGAタイムを通して、全児童が安全かつ適切にタブレット端末を活用することができるようになったか。 ②日常的にタブレット端末や ICT 機器を活用した授業を行うことができたか。 ③教育委員会指導訪問において、全教員が読解力向上に向けた授業を行ない、指導助言を受け、授業改善につなげることができたか。 ④外部講師を招聘し、年3回の校内研究授業を実施することができたか。	①GIGAタイムをはじめ、日常でタブレットを活用する際に指導を行うことで、児童の情報リテラシーが高まった。 ②年度途中で各クラスにプロジェクターが設置されたため、ICT機器を活用した授業が積極的に活用された。 ③教育委員会指導訪問に向け、各教員が研究を深め、読解力向上を意識した授業を行うことができた。 ④外部から講師を招聘し、専門的な立場からご指導をいただいた。年間3回の校内研究授業や研究協議等を通して、授業の質の向上が図られた。	A	①児童の情報リテラシーの向上に向け、定期的に指導を行っていく。教師も最新の情報を研修できるようにする。 ②1人台のタブレットやプロジェクター等の ICT 機器の有効活用について、エバンジェリストを中心に、研究を進めていく。 ③④本校の課題である読解力向上にむけ、今年度の研究の成果をまとめ、引き続き実践的な研究を深める。	○タブレットの活用等、子どもの吸収力がすばらしい。保護者が子どもから教えてもらって、一緒に勉強するという感じでした。 ○ICTスキルについては、教員間の格差、子ども間の格差があると思うので、実態把握や研修等を行ってもらいたい。 ○読解力については、本を読むことが大切だと思うので、読書の習慣を身につけてもらいたいと思います。

